

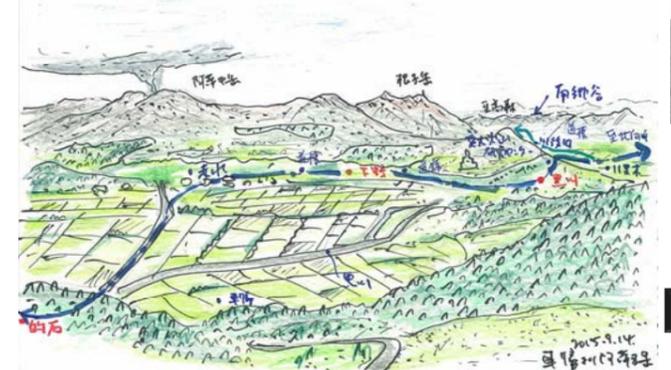
晴耕雨読

40

発行 株式会社 建設プロジェクトセンター
 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業登録
 〒869-1234
 熊本県菊池郡大津町引水215-1(技術研究所)
 本社:熊本市/八代支店/合志営業所
 TEL:096-293-4400/FAX:096-293-4885
 E-mail:kenpro@muc.biglobe.ne.jp

Vol. 40 Nov 2015 seikoudoku

晴耕雨読は平成15年秋に第1回を発行して、今年で12年目を迎え今回で40回目の発行となりました。身近な風景の話を中心にこれからもがまだしますので宜しくお願いします！



朝焼けの阿蘇山



早起きは三文の徳と言いますが、左の写真は最近習慣となりつつある「朝の散歩」途中に出合った阿蘇山の朝日です。あまりの綺麗さに足が停まってしまうました。H/N



身近な環境を楽しむ

「アレロパシー」作用のある植物の話

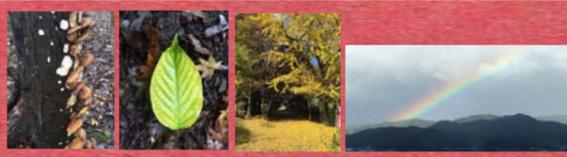
11月中旬ですが平地の植物は、まだ紅葉の感じは見せてくれませんが、色づく間もなく落葉しているものもあります。植物は四季の変化に衣を変えて楽しませてくれます。今回は「アレロパシー」についてご紹介いたします。アレロパシー（英語：ウィキペディアの解説）とは、ある植物が他の植物の生長を抑える物質を放出したり、あるいは動物や微生物を防いだり、あるいは引き寄せたりする効果の総称で、邦訳では「他感作用」と言われます。特に農政関係では耳にされた方も多いかと思えます。アレロパシーは、連作障害の原因の1つとも考えられています。皆さん良くご存知のセイタカアワダチソウが他の雑草を抑制し群生するのもこの作用が要因の1つにあるようです。近年、維持管理の時代になってからは、この作用を有する特定の植物を使って雑草や害虫を防除する生物農薬としての活用が注視されています。先進的には圃場整備の畦畔等草刈手間の軽減に適用事例が多く、近年では緑地帯等へも同効果による除草管理コスト削減材としての活用事例が増えているようです。A/T



センチピートグラスの事例



ヒメワダレソウの事例



2015年秋 山形県に石橋復元



平成24年7月の豪雨で日本最北端の石橋群の一つ小巖橋(石橋)の一部が流出。この橋は日本土木遺産に認定された石橋で、山形県の強い思いから復元に至ったもの。石橋復元は、既石材を加工することが許されないため、新しく造る場合に比べ技術と手間を要する。昨年10月当地を訪れた折に、ニホンカモシカと出会い、今年は全長5cm程度のクロサンショウオと出合った。場所は子易観音様近くの水源であった。H/N

年貢納めの 往還を歩く



今から約200年前、阿蘇地方から大津町へ納入する米を運ぶ年貢納めの道があると聞き訪れた。南阿蘇村の八里木から北向山を経て大津外牧までのルートは急峰山腹に強気の石工集団によって1年で作られたと聞いた。実際に行ってみると、古い石材が残っているが壊れている所もあった。老杉(左写真)は、その姿が圧巻で歴史を感じました。H/N



「サラメシ」のある風景

球磨川左岸の人吉城跡の「はね出し石垣」(武者返し石垣)は、私のとっておきの憩いの場所です。今の季節は、悠々と流れる球磨川を背に赤や黄色に色づいた木々と深まる秋を感じながら、手弁当3年目です。少しは出来も上手になった愛妻弁当を開くのも楽しみの一つとなっています。歴史を育む球磨川の水面に映し出される人吉城跡は、鎌倉時代以降の相良氏統治670年を含め、古い重厚なたたずまいと歴史を肌で感じる場所であると同時に、未だ解明されない歴史の「謎」も数多く残っており、今後どのように明らかにされるか興味があります。皆さんも日本遺産に認定された見どころ一杯の人吉・球磨地域の文化・名宝・歴史に思いを馳せながら散策を楽しんでみませんか？B/I

フリクション色鉛筆



むべのスケッチ

フリクションボールという筆記用具を以前から愛用しています。頭に付いているゴムでこすることで、温度が上がりが消えるので、修正ができて消しゴムのようにかすが出ないところがいいですね。温度が60度以上になると消えるようになっています。最近、同じ会社から消える色鉛筆が売られました。「フリクション色鉛筆」という製品です。早速買って使ってみましたところ、色の薄いものを描くのに適している様です。M/T

Cattleya (カトレヤ)



カトレヤ

カトレヤは、洋蘭の中でも大輪で派手な花であるため、蘭の女王と呼ばれている。若い頃には何か恐ろしい花のようで好きにはなれなかったが、なぜか60歳を過ぎてから親しみを感じています。N/S

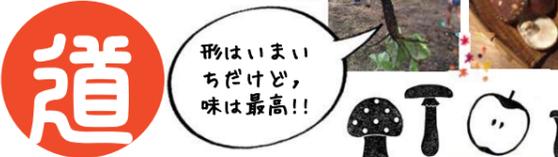
下記0内の四字熟語「至道無難」

「至道無難」は、選り好みせず 頑張れば1つの道に至ることは決して難しいことではないという意味合いです。

身近な農を楽しむ

平輪農園の秋

9月に農園でカライモの収穫を行いました。カライモは毎回うまく育たないのですが、今年は皆で分けられる程の収穫が出来ました。里芋は12月頃に収穫出来るような感じで、今から楽しみです。昨年収穫が大変だったゴボウは、ビニール袋で栽培しましたが、チョット短めのゴボウが完成しました。さらに来年は改善が必要のようです...T/B



身近な土木文化を楽しむ

農業基盤の維持管理に思うこと

農業用水は、かんがい用水・地域用水・生態系保全・親水空間の形成等、多面的な役割を兼ね備え、年間水使用量は全体の約3分の2を占めています。都市化や異常気象といった自然的要素が加わり、農業用水の量的偏在及び質的悪化の問題等が深刻化しています。熊本県南でも、農地が常時地下水の高い状態にあり、地区全体で排水不良や水路の老朽化による漏水、用水不足等に加え、施設等の維持管理の増加等の問題が生じております。そのため、用排水路・農道等を整備し、用水不足の解消や農業用地・施設の湛水被害を防止する事業が進められています。今後は、維持管理費の軽減と農業経営の安定等の観点から、地権者と行政等が一体となり農業施設関連の整備と充実強化を図ることが重要と考えております。T/M

地域のシンボル石橋と共に生きる!!

天草市楠浦に天草を象徴する石橋がある。名前は「楠浦眼鏡橋」と呼ばれ諏訪神社へ参拝する際に儀式として通るこの地域の代表的なシンボルの橋です。石橋は天草の下浦石(砂岩)でできており、近年壁石等にはらみ出し等が見られ、修復工事が施されてきました。修復工事も貴重な地域の財産を後世へ残す大切な仕事です。H/N



■後記：熊本県内には、スケッチや写真に残したい風景や美味しい・懐かしい郷土料理等があります。まだまだ、気をつけて見るとビューポイントや歴史の重みを感じる文化的景観などの資源が沢山残されています。今後も皆さんへ地域の良さや文化などを紹介していきたいと考えており、この晴耕雨読は11名の投稿者の協力を得て作成しました。

日本の和食が世界無形文化遺産登録
 熊本の阿蘇が世界農業遺産登録

Rural environment

400才の本願寺のイチヨウ



左写真は本願寺のイチヨウです。樹齢400年で天明8年(1788)や元治元年(1864)の大火の際に、火の粉を浴びながらも生き抜いてきた木との事。今度は黄金色に紅葉したイチヨウを見てみたいです。I/O

ふるさとの秋を楽しむ



日本には、およそ3ヶ月ごとに変わっていく四季がありますが、春は(桜)夏は(海)秋は(紅葉)冬は(雪)とそれぞれの特徴を楽しみ、夫々の季節の海産物や農産物を『旬』として楽しむ国民性は珍しいようです。T/B

東アフリカのタンザニア人との交流



阿蘇市古城小学校で行われたフェスティバルにコンスタンティン一家と参加。スワヒリ語で大丈夫は「ハクナマタタ」道路は「パラパラ」など日本語に近い言葉が沢山あります。

空からの調査業務開始! 調査に活用しては如何ですか? Civil Engineering

赤い鋼の橋の今



プレートガーダー橋(桁橋)は、左写真のように鋼材を主桁に用いた橋で、鋼板をI型に溶接したものやH形鋼が使用されています。中小規模の橋梁で見られるこの形式は、設計・製作が容易で、構造が簡素で軽量なため現地工事が容易であり、下部工を小型化できる等の特徴があります。鋼材は耐候性鋼材を除き定期的に塗装が必要ですが、点検において初期不良を発見しやすい、ほぼ100%のリサイクルが可能などメリットがあります。しかし、近年は経済性の面からPC橋が主流となっているようです。K/S

熊本の鋼橋(No.4) 白川に架かる鋼トラス橋

白川の河口より上流へ7.3km遡った地点に、3径間鋼トラス橋(橋長:191m,有効幅員:5.5m,中央径間ゲルバー式)の薄橋が県道227号並建熊本線に架かっています。金峰山を背景に白川にどっしりと横たわった姿は貫禄十分です。また、十八口堰(固定堰)を通して見る下流側からの眺めも格別で、竣工は昭和34年(1959年)3月、建設後56年が経過しています。橋歴版には製造会社である汽車株式会社(昭和49年川崎重工業に吸収合併されたが、明治時代に日本鉄道の黎明期を牽引した会社)の名前が見られました。主構部材は工場溶接が採用されており、しっかりした溶接ビード外観が技術の高さを示して、構造的には一見連続トラスに見えるが、中央径間はゲルバー式となっています。塗装は塗替時期に来ているが、橋梁本体はしっかりしておりできるだけ長く使い続けたい橋です。N/S



左平面スケッチは壁石に工夫された長尺石材で、補強土の役割を担います。